

「八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 8 日（火）14：40～15：30

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 29

●●●●●といます。東京に住んでいます。東京北区です。自然保護団体の会員であります。

今年は大変な年で、3.11 の福島原発事故のことが、いまだに一番大きな問題になっています。この原発事故で私たち国民が判ったことは、この国の政治は私たち国民の為にあるのではなくて、国の役人とか、議員とか、あるいは大企業の利益のためにあるということが多くの国民に判ったということ。そして、そういう事態をマスコミは今まで正確に伝えていなかったということも判りました。いま、多くの人の大きな犠牲の上に、この国中で反原発の声が高まっています。原発だけでなく、しかも原発と同様に、ダムについても危険だ、いらぬという住民の声が各地で起こっています。しかし、ここにいらっしやるような官僚も、それから、知事、市長など自治体の長も、そして、土建会社を営しながら議員をやっている人たちも、ダム建設推進の政策を変えようとはしません。それから今、そこにお顔が並んでいたんで、気がついたのですが、書き落としたことがあります。国土交通省ほか各役所の人たちの退職後の就職先といますか、それもこういう大きな建設とか利権とかそういうものと大いに関係のあることになっています。そういう方たちは、長い間、国民がいかに要求しても、声を上げてダム建設推進の政策を変えようとはしません。八ッ場ダムの件でも、私たちの主張と国側の意見との違いはちょうど原発問題と似ているところがあります。新聞の報道によれば、八ッ場ダム工事の関連事業を受注した 20 社以上の企業から、もう何年も続いて、群馬県の自民党支部への年間数百億円にのぼる献金があった、と言われていて、書かれています。この記事では、献金を受けた側の小淵とか中曽根とか、そういう支部長の実名も出ていますが、ここに名前を挙げられたような議員さんたちが、事実無根だとか名誉毀損だとか、そういうことで訴えを起こしたという事実は全くありません。巨大な金が動くダム工事では、献金もまた巨額なものになっています。私たちはこの事実だけでも、大きな声を上げる必要があると思います。私の知る限り、八ッ場ダムを造るという計画は 1947 年、終戦後 2 年目に、キャサリン台風で利根川の堤防が決壊して、関東の 6 都県の約 1,100 人の方が亡くなったことから、上流のダム群で、その後の洪水を防ごうとしたのが始まりだと思います。当時はさらに 10 基以上のダムが必要とされていましたが、八ッ場ダム以外に計画はなくて、これでは国の言う洪水対策とは何なのだということになります。洪水対策と称するダムが 50 年以上も着工されてないことは、本当に洪水対策なのか、なんか他の目的があるんじゃないか、そういうふうに思わざるをえません。いったい、何年後のそこに生きている住民をダムで洪水から守ろうとしているのかということになります。私たちが見るところでは、マニフェストでダム中止と言われた後になって、急にダム推進がしゃしゃり出てきたような感じがします。今、問題になっている検討報告書ですけれども、私たちから見れば、吹き出してしまおうような無理な数字合わせでダム建設の正しさをでっち上げている、あえてでっち上げていると言いますが、質疑応答は出来ないようですが、なんかそういう言葉は使わないでとか、なんかご意見があったらばどうぞ言って下さい。私は別に最初の約束と違うぞなんて言いません。でっち上げてですね。それで、この際、何が何でもダムを造ってしまおうという姿勢がこの検討会報告書になるんですけど、みえみえで、地域に住む人の都合とか、それで幸福な生活が得られるのかと、そういうことについては、ほとんど考

慮されてないように見えます。検討報告書の話です。一例ですが、私の住んでいる東京都の石原知事のことですが、彼はこのダム中止の問題が出て以来、というか、その前からですけども、子供でも騙されないような幼稚な理論で、ダムを造れ、ダムを造れと建設推進を主張しています。これは私たちが時々話しをするんですが、都庁の石原の部下が、石原に進言する仕方が悪いのか、あるいは石原が不勉強なのか。それでこんな主張しか出来ない、そういうふうに思います。多くの人が安全に暮らしていくためのダム、その他の政策を支配する、政策を知事が支配することは住民に、この知事が支配することは、住民にとって、大変に危険で不幸なことだと思っています。八ッ場ダムの大きな危険性の一つに浅間山の噴火の問題があります。文献によれば、天明3年の噴火では、現在の長野原町で243人の死者が出ただけでなくて、ダムよりも下流の渋川市でも157人の犠牲者が出ています。八ッ場ダムは地震の多発地帯に囲まれていて、しかも地すべり地帯も多くあって、浅間山から20kmしか離れていません。ここで大噴火が起こったら八ッ場ダムはどうなるでしょう。天明3年浅間山噴火史という文献がありまして、それによると、その噴火で、天明の噴火で長野原地区に流れ込んだ火砕流は、吾妻溪谷では最も狭い猿岩のあたりで、岩石と樹木と家屋などが詰まってしまっ、逆流したとあります。八ッ場ダムが出来た後、浅間山が噴火して、ダム湖に大量の火砕流が流れ込めば、一時的に逆流が起きて、代替地は火災汚泥とダム湖の水で埋まってしまうと考えられます。そして八ッ場ダムは火砕流の巨大な圧力に耐えられないで、決壊してしまうことが予測されています。これは多くの地震学者などが発表していることです。天明の大噴火では、熱汚泥で26時間後に、噴火から26時間後に、東京葛飾の金町にまで火砕流が達して、江戸川の中洲には上流から流れてきた多数の遺体が着いたと記録されています。浅間山の大噴火を、今後の大噴火を考えたならば、八ッ場ダムなどは計画出来るはずがないのに、国交省河川部は浅間山の噴火に関する対策は、八ッ場ダム事業とは別の施策として、噴火対策が含まれていない住民無視の縦割りの行政の一端を明らかにしてしまいました。八ッ場ダムが住民の安全のために計画されたものでないことがここでも証明されています。ここまで述べてくると、こんなに何重にも危険で、住民を苦しめるダム計画は無い方が良くということになります。そうならば予定地域のそうならばと言うのはダム計画が無くなればですよ、予定地域の貴重な自然と文化財もダムの底に沈まないで残るのです。検討報告書では、湖底に沈む文化財などについては、調査とか記録保存となっていますが、それでは自然や文化財を破壊してしまう行為を別の言葉で述べているに過ぎません。一例ですが、両岸が垂直に高く切り立った吾妻溪谷を散策している人たちに、先日も行ってきましたが、ここはダムで沈んでしまうんですよと話す、誰もが顔をしかめます。国は何をやっているんだと慚然とする人もいます。先日亡くなったアフリカのマータイさんの言葉をもう一度噛み締めてもらいたいと思います。いま、吾妻線の川原湯温泉駅に降りると、駅のすぐ前に巨大な土砂崩れの現場が、嫌でも目に飛び込んできます。駅から車道一本隔てただけの、北向きの高い斜面が最上部から大きく崩れて、途中の樹木をなぎ倒して、その末端はこの崖と車道との間に建っている八ッ場ダム総合相談センターに迫っています。センターはやっと難を免れた形で、崩れてきた大量の土砂から10mほどしか離れていないところに建っています。八ッ場ダムの不要性や危険性を問題にしている人たちが指摘している通りの事実が、ダム本体の着工以前から周辺各地のあちこちで起こっています。しかも、国交省や工事の業者はこの状態を急いで元に戻すことも出来ず、まるでダム反対の皆さんの言っている通りですよと言わんばかりに危険な実態をさらけ出しています。さらに問題なのは、この崩壊の上部が八ッ場ダム建設で水没する川原湯地区の代替地であることです。移住者の安全は保証されているのでしょうか。未着工のダム本体だけでなく、関連の事業にも、安全面ひとつをとっても未解決の問題が多いようで、無責任な当局や議員たちにまかしておくわけにはいかない緊張した事態が続いています。私はもう一度、声を大にして要求します。八ッ場ダム計画は、こんな

危険なハッ場ダム計画は、今ここで、即刻中止にさせていただきたいと思います。終わります。

以上